

Future Design

学生とともに、先生とともに創る



Contents

- ・はじめに
- ・活動レポート
 - ・新入生オリエンテーション
 - ・FD Café

教員インタビュー

- ・松尾 敬二教授
(電気工学科)
- ・藤岡 寛之教授
(システムマネジメント学科)

Faculty
Development

VOL.

はじめに



学生FDスタッフとは？

福岡工業大学における学生FD活動は、本学の授業改善を教員・職員・学生の三位一体で改善・向上させようとする取り組み、およびそれに関わる活動です。

学生FDスタッフは本学の授業改善を学生の視点から教職員と一緒に考え、教職員と学生を”つなぐ”活動によって福岡工業大学での「学びのコミュニティづくり」の役割を担っています。私たちは、学生の本音を吸収し、学生が感じていることを教職員に伝え、また教職員が考えていることや課題を学生の視点から考え、それを学生に伝える存在として活動していきたいと考えています。



学生FDスタッフ一同

FD 推進機構長 下村学長より

文化を興す ベンチャーになれ

学生FDスタッフの活動は、形を変えたベンチャーです。学問の前に教員と学生は平等であると私は考えています。だからこそ、学生の視点から意見や考えを取り込んでいくことが重要であると感じています。本学の建学の綱領を私は『AIG』と呼んでいます。

Accreditation(教育の質の保証)

Innovation(価値の変換)

Globalization(グローバル化)

の頭文字です。このような指針に基づいて人材を育てるためには、教員・職員・学生が三位一体となって取り組むことが必要であると思っています。そのために学生FDスタッフが学生の視点から大学の教育改善というベンチャーになって欲しいです。



FD 推進機構長
学長 下村 輝夫

新入生オリエンテーション

2017年4月3日(月)～5日(水)に開催された『新入生オリエンテーション』のFIT-inセミナーの学生の交流会に学生FDスタッフが企画・運営の立場で参加しました。目標を、新入生が「本学で学ぶ自分なりの意味を明確に持ち、学生生活をスタートする」とし、私たち学生FDスタッフは新入生同士のコミュニケーションを図ることを目的とした交流会(アイスブレイク・学内オリエンテーリング)の企画・運営を行いました。



アイスブレイク

コミュニケーションゲームを通じ、初対面の学生同士の緊張を解きほぐすことを目的としました。ワークショップを含め、一日の行動を共にするグループとの関係構築の第一歩と位置付けています。

学内オリエンテーリング

写真やキーワードなど、与えられたヒントを元に「アイスブレイク」で形成したグループで、学内の指定された場所を巡ります。ゲーム性を持たせることでグループ内の交流を図り、新入生にとっては未開の地である学内の教育・研究施設の場所を知ることができました。



FD Café ～教職員&学生懇談会～

2017年9月15日(金)にFD Café ～教職員&学生懇談会～に参加しました。「アクティブ・ラーニングについて話をしよう！」というテーマのもとに、本学から28名(教員11名、学生11名、職員5名、高校教員1名)が集まり、アクティブ・ラーニング(以下、AL)型授業の全学的、組織的な展開を推進している中で、授業を受講している学生たちがAL型授業をどのように捉え、どのように感じ、何を身に付けているのかについて、教職員と学生FDスタッフで意見交換を行うことができました。

FD Café後の学生FDスタッフの振り返りでは、「先生方が学生に理解してもらうために悩みながら授業を工夫していることを知れて、もっと頑張ろうと思った。」「教育改善は先生方だけがするのではなく、学生も学び方を改善していかなければならないと感じた。」「この気づきを福工大生に共有していきたいと思った。」との意見がありました。今後もこのような形で先生方と話ができる活動を続けていきたいです。



教員インタビュー

教員インタビューは、先生方の授業での工夫やそこに込められた想い、また普段なかなか知ることのできない休日の過ごし方などをインタビューしました。その内容を学内に広めることで、学生が授業や先生方をより身近に感じ、興味を持ってもらうことでより真剣に授業を受けて欲しいという想いで行いました。

今回はAL型授業や全学的な授業改善を推進されている「ファカルティ・ディベロッパー(FDer)」の松尾敬二先生、藤岡寛之先生にAL型授業を軸にお話を伺いました。インタビュー中は終始和やかで、驚くことや納得することばかりで、学生FDメンバーも授業に対しての姿勢を改めて考えるきっかけとなる貴重な時間でした。





● 教員紹介

- ◆ 氏名：松尾 敬二 (マツオ ケイジ)教授
- ◆ 学部 / 学科：工学部 / 電気工学科
- ◆ 研究分野：核融合学
- ◆ 主な担当科目：電気回路概論、エンジニアリングデザインⅠ・Ⅱ、電子回路Ⅰ・Ⅱ、デジタル回路

受講生の理解度を高めるために授業で工夫している点がありますか？

事前学習を義務づける反転講義という形で行っています。反転講義というのは自宅などで事前にその日の講義の内容を学習し、講義では演習問題や質問などをメインに行います。そうすることによって教員と学生の距離が縮まり質問を受ける時間が増えます。また、事前に講義の予習をすることで講義に対しての心構えができ、学生たちがより集中して講義に参加できるのが狙いです。

様々な工夫をされているかと思いますが、その中で苦勞された点がありますか？

先ほどの工夫点の他に、この講義ではグループ学習の時間も設けています。教員には質問しづらいことも友達同士なら気軽にできるのではと思ったからです。しかし、学生同士が教えあっている班もあれば全く会話がないうち出てきます。この会話がないうちをどのように改善するかというのが大変でした。

今後の授業でどのような取り組みをしてみたいですか？

今後さらに授業が活性化する方向にもっていきたいと考えています。教員が教える、また学生同士で教えあう、そのことを通じて「自分の頭でしっかりと考えることが大切だ」

ということを学生に理解して欲しいと考えています。教員に教えられるという受け身な講義ではなく、学生が自分の頭で考えて授業を理解していく、そういう講義を作っていきたいと思っています。

土日は何をされていますか？

毎週木曜日と日曜日はバドミントンをしています。他には、中学一年生の娘の勉強を見たりもします。

受講生や学生に伝えたい事はありますか？

教員は、学生の“敵”ではなく“協力者”です。容易に単位を出さないのは、卒業した時に電気を学んだ者として、必要な力を持っていて欲しいからです。これからは“人間力”即ち主体性を身に付けて欲しいと思います。

担当学生FDスタッフより



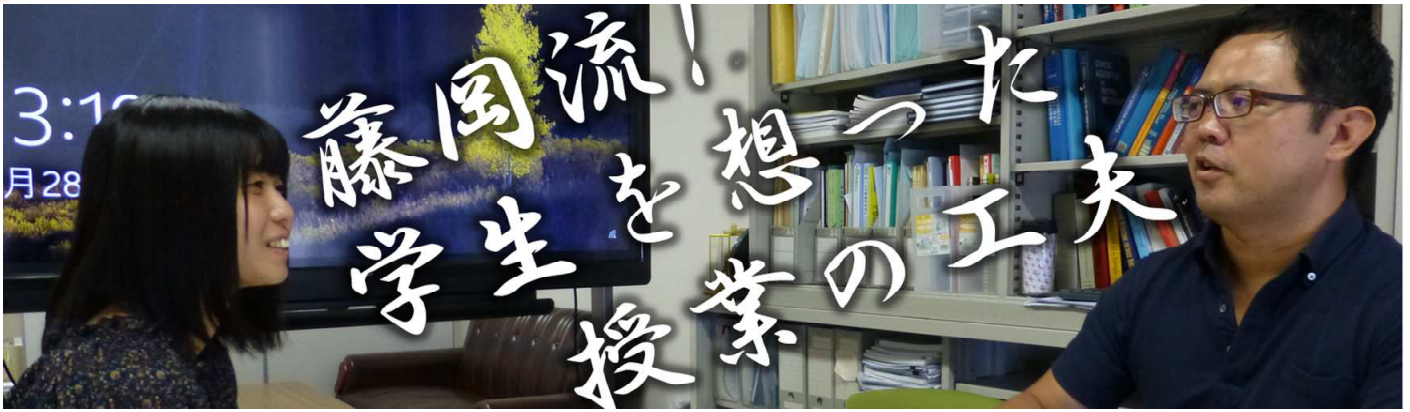
電気工学科
西岡 優仁

「先生に教えてもらうという受け身な講義ではなく、学生が自分の頭で考え授業を理解していく」ということが大事であると改めて感じました。これからのCS活動でも学生が主体的に動いていけるような授業にしたいと思いました。



電気工学科
武藤 司

先生の授業は私も以前受けていたのですが、今回の話を聞いてここまで授業内容が変わっていることに驚きました。先生たちも学生が理解を深めるために色々と考えてくれているのだと改めて感じました。



● 教員紹介

- ◆ 氏 名 : 藤岡 寛之 (フジオカ ヒロユキ)教授
- ◆ 学部 / 学科 : 情報工学部 / システムマネジメント学科
- ◆ 研究分野 : 知覚情報処理、知能ロボティクス
- ◆ 主な担当科目 : データ解析、確率統計Ⅰ・Ⅱ、システムマネジメントゼミナールⅠ・Ⅱ



受講生の理解度を高めるために授業で工夫している点がありますか？

教員から受講生という一方の授業ではなく考える機会を増やすようにしています。例えば、発表の回数を多くしたり、キャリアポートフォリオを授業の復習に活用したりしています。また、授業中に話し合いをする際は全員立って話をします。これは、周りの人と話しやすくするためだけでなく、眠気防止も含めそのようにしています。

様々な工夫をされているかと思いますが、その中で苦勞された点がありますか？

授業の工夫は真似をするだけではうまくはいかないという点です。大失敗、成功、大失敗、成功を繰り返すうちにこれならできそうという自分なりの授業をすることができました。

今後の授業でどのような取り組みを試みたいですか？

数年来思っていることですが、授業の質の向上に取り組んでいくということです。ここでの授業の質の向上とは2つあります。1つは学生が学んだことを生かせるようにするために学生の知識の向上、もう1つは自分自身の教育の質の向上です。そのために、難しい授業でも興味・関心を持ってもらえるような面白い授業をしていきたいです。

土日は何をされていますか？

基本的には仕事を忘れるという時間を作っています。朝はランニングをして、その後は子供と遊びます。最近では、ザリガニ釣りやクワガタ取りに子供と出かけました。夜10時には布団に入ることもあります。もちろんすぐに眠れない時もあり、そういった時には映画を観ます。

受講生や学生に伝えたい事はありますか？

学生時代にしか出来ないことをして欲しいです。サークル活動や旅行など、学生時代の経験は自信に繋がる材料になると思います。だからこそ、自分の興味を持ったことや面白いと感じたことは自ら学び、人を巻き込んでもいいから一歩踏み出して欲しいです。

担当学生FDスタッフより



システムマネジメント学科
岩橋 祐介

学生に向けて学習内容を理解させるようにすごく努力されていることを知りました。また、学生である私たちがどのような態度で授業に臨むかを少しでも考えてみようと思えるきっかけとなりました。



社会環境学科
中山 歩美

学生の事を想った授業の工夫をたくさんされていることを知り実際に授業を受けてみたいと思いました。また自分が興味を持ったことは自ら学ぶ姿勢が大切なことに改めて気付くことができました。

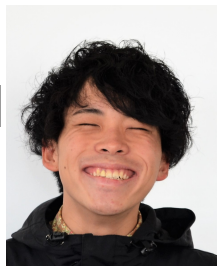
Member

～ メンバー紹介・活動への抱負 ～

林田 裕平

電子情報 / 4年

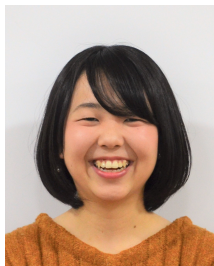
リーダーとして
みんなを
支えていきます！



石橋 怜奈

情報工 / 4年

自分らしく
いられる場所を



山川 翔

システムマネジメント / 4年

奮起一番！



西岡 優仁

電気工 / 4年

人生、
楽しく、
前向きに



武藤 司

電気工 / 4年

何事にも
挑戦！！



島崎 早智

システムマネジメント / 3年

みんなを
笑顔に！



豊福 慶大

情報工 / 3年

悔いなく
全力で！



中山 歩美

社会環境 / 3年

いつも
笑顔で、
全力で！



鶴野 裕太郎

社会環境 / 3年

踏み出す事で
何かが生まれる



喜屋武 咲世

電子情報 / 3年

楽しみながら
全力で！



岩橋 祐介

システムマネジメント / 2年

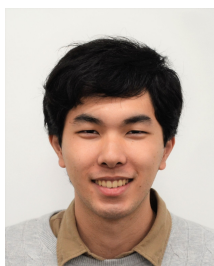
パワフルかつ
タフに
頑張ります



玉城 翔

情報工 / 2年

自分に
出来る事を
精一杯！



赤木 里騎

情報工学専攻 / M1

楽しくなるまで
学び続ける



FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

発行元：福岡工業大学 FD推進機構

〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1 E棟3階

TEL：092-606-7370 FAX：092-606-7379

Mail：o-fd@fit.ac.jp Web：http://www.fit.ac.jp/

発行日：2017年12月14日

編集・作成：学生FDスタッフ・FD推進機構